

優秀賞

キャッチフレーズ

# 耕す庭の家

応募者 設計者：スタジオ紡 建築設計事務所 林 寿子 他1名

## 建物概要

建築面積：57.53㎡  
延べ面積：83.21㎡（1階：50.92㎡ 2階：32.29㎡）

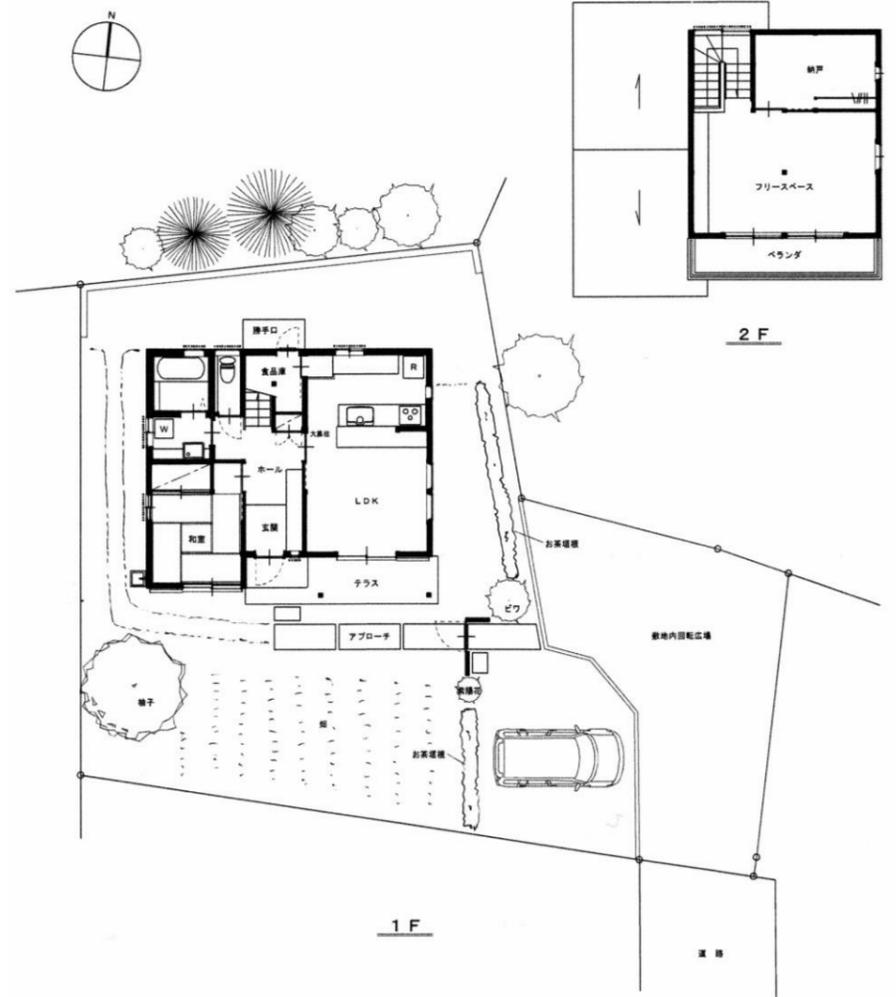
## 設計趣旨

地産地消を大切にしたい暮らしを想う、若いご夫婦の住まいです。大工による手刻みで無垢材と漆喰で出来た、小さく簡素な家を依頼されました。そのため、合板や集成材は一切使わず、構造・下地・仕上げ全ての木材に多摩産材を使い「とうきょう森づくり貢献認証制度」の認証も受け、二酸化炭素固定にも貢献した家です。

間取りの一番の希望だった食品庫をキッチン横に設け、勝手口から土足のまま出入りできるように土間床にしました。野菜や手作り味噌、梅干しを保存しています。リビングはダイニングテーブルやソファを置かず、大工に多摩産材で作ってもらったちゃぶ台を囲むので、8帖でも十分な広さです。2階は家族の衣類や季節物を全て収納する大きな納戸と、子供が成長した時に簡単に区切れるフリースペースとしました。

小さな家にしたことで建物の周りが広く取れ、風が流れます。軒の出も大きく出来、夏の日差しを遮り、雨仕舞も良くなりました。何より畑が広くなり、一年を通して耕す庭が実現しました。

## 各階平面図



準防火地域でも可能な範囲で外部に木を見せる造りとし、控え目で畑や緑に溶け込む佇まいを大切にしたい。桧の門扉両脇には施主自らお茶の苗木を植え、何れ垣根となる。



リビングは2階の杉床そのままの「踏み天井」で梁組を現しにした。



三間の梁間を1本の太鼓梁で固めた小屋組み。野地板も杉材を使っている。



造り付け家具も全て大工製作。修理や増設が可能なのも無垢材の良い所。



家族で構造手刻み中の加工場へ行き、棟梁に木組みの話をしている。家づくりの楽しさが広がる時間。